



思わず何かひとこと言いたくなる仕掛け

— “2ちゃんねる” で教室をくすぐる—

齋藤 智美

この度「私の工夫・私の失敗」というお題をいただき、すぐに頭に浮かんだのが生教材の扱いでした。この貴重な機会に日々の試行錯誤を書いてみます。叱咤ご教示いただければ幸いです。

さて、生教材についてです。中上級の教科書本文では「少子高齢化」「未婚・非婚」「遺伝子操作」「環境汚染」「食生活」「死刑制度」などの社会問題がテーマとして扱われていることが多く見られます。それらはまさに社会問題として、深刻なものとして、中には自虐的に書かれているものもあり、精読するうちに暗い気分になってしまうことも少なくありません。そしてこれらをテーマにして話し合い、意見交換をし、考えをまとめるというような活動の際には、生教材を用いることもまた少なくありません。新聞や雑誌の記事などが多いですが、書き下ろしの時点と現時点での社会の動きとを関連づけて、語彙や表現とともに学ぶ助けになっています。しかし、提示の仕方が上手くないのか、実際に使用すると教科書の延長線となってしまうことがあり、生教材ならではの新鮮みを活かすような工夫が必要だと感じていました。また、学生同士の意見交換では、このような社会問題にそれほど興味を持っていない場合があるのに加えて、属性が似ているからか視点が広がりにくく、当たり障りのない、惰性の議論のようなものになることがたまにあります。このようなとき、議論が活動の主目的ではない場合でも、せっかくですから、何か自ずと言いたくなるような場を作りたいと思うのです。

思わず何か、ひとこと言いたくなってしまうような場を仕掛けたい。読解としても、能動的に内容をとるような場を作りたい。そのようなときに、2ちゃんねるの書き込みを用いています。

例えば、教科書で「少子高齢化」が主要テーマである章では、『男性の3分の1、女性の4分の1が生涯結婚できない時代に』という日経ビジネスの記事を取り上げたスレッドを用いました。始めの方は、「結婚できないわけじゃなくて 興味がないだけですから」「昔は結婚しないと世間体がアレだったけど 今はそんなことないしな」などと書き込みが続きます。そして「もはや手遅れと言わざるを得ない」とのコメントともに未婚率の推移グラフが添付され、それに対して「仲間が1/3もいるんだから心強い」「みんな結婚しないほうが裕福に暮らせることに気づいたから・・・ もう何やっても少子化の波は止まらない」と続く。そして、なぜこうなったのか、非正規雇用の問題や親の義務についてなど様々な考察が数行でやりとりされ、そのうち、「ちなみに14歳以下の出産は増えてるんだぜ」「フランスは出生率は改善したけど結婚率は下がってる。男が養う必要なし、事実上国が養う」「つまり、シングルマザーで出生率を改善させたのか 要チェックやな」など、社会保障に話題が移っていきます。学生同士の話し合いでは、結婚適齢期や家族の問題、社会のあ

齋藤智美／思わず何かひとこと言いたくなる仕掛け

り方など様々に意見交換がされてそれなりに充実していたように見える場合でも、話し合い後にこの生教材を参考として読んでみると、またそこから自然と意見交換が始まります。「二次元に嫁いるから無問題」などという書き込みに爆笑しながらの、緩くリラックスした二次会的な話ですが、その前に意見交換したことを振り返りつつ話せるようです。また、あまり話し合いが活発ではないときにはこの生教材を挿入すると、クリティカルなコメントが出やすくなる印象があります。

しかしこれも、生教材を出すタイミングを誤ると、その内容に同意して終わりとなりかねません。またネット上での他者の意見を参照することが、レポートや作文を書く際に剽窃するようなことにつながないように、注意をしなければならないと考えています。つまり、自分の頭で考えて表現する機会を失ないように、授業の流れと反応を見る難しさは、毎回の課題です。

基本的に生教材は加工しないで用いるものですが、2ちゃんねるのスレッドは、1つにつき1000のレスが出来るようになっていきますので、スレッドの本題である記事とともに10から20ほどを抜き出して、教室に持ち込んでいます。また、2ちゃんねる独特の言い回し（乙、ネ申、顔文字）や、書き込みに多い表現（～だよ、～のか、～だな、～だしな、～なんじゃね）などは、事前に解説が必要かと考えていたのですが、大抵は、書き込みの内容そのものに集中するので、細かな表現などは気にならないようです。内容そのものに焦点を当てたいので、それはそれでいいと思うのですが、本来の活動の妨げにならない程度に、これらの表現、同意や軽い反論、納得などをとりあげることもあります。以前、読んですぐにこれらの表現を取り出して扱ったところ、それまで抱いていた様々な終助詞についての疑問が噴出して、その時間にするべきことから大きくそれてしまったことがありました。しかしどうやら、表現に引っかけられないほど、書き込み自体がもともと内容に注目するように引きつける力を持っているようです。このあたりは個人的に興味があり、調査してみたいと考えています。新聞や雑誌の記事というのは、ある意味、静的なものであるのに対し、書き込みは推敲なしで、書き込む人の考えがダイレクトに短く応酬されることから動的とも言えるかもしれません。そしてそれが教室活動の活性化を促すのではないかと考えています。また、書き込みの参加者は匿名ですが様々な年齢の老若男女の可能性があり、ひとつのトピックに対して多様な視点からの意見が見られるのも特徴の一つです。意外な方向からのコメントが思考の枠を広げる、という大げさな感じがしますが、要するに、盛り上がる。盛り上がるというのは、思わず自分も何か言いたくなる状態で、身近に感じにくい社会問題がトピックの時は特に、そのような状態を求めたくなります。

実は昔々、『電車男』が出版された日に、始めの数ページをあるクラスで紹介したことがありました。授業の一環ではなく、休み時間に軽く紹介するつもりでした。しかし、驚いたことに、彼らは何気なく目を落として読み始めると、貪るように、辞書に手をかけることもなく一気に読んでしまったのです。語彙も、文型も、馴染みのないものが多く、少し解説してからと考えていたのが、何もしないで読んだ後、一斉に「続きが読みたい！」と大騒ぎでした。続きは本屋で買ってください、としたのですが、翌日、ほとんどの人が買って読んでいました。ここまで夢中にさせるのは、内容の面白さもさることながら、短いレスの応酬とその臨場感、共感にあったのではないかと、思います。そのことを思い出し、生教材として2ちゃんねるの書き込みを用いてみたのです。2ちゃんねる、というと、ひきこもりやニートの巣窟、犯罪の温床のように見る向きもあるようですが、多

種多様，というよりあらゆるテーマの情報交換や議論が行われる，大変ユニークな場を提供しているものだと思います。これだけの人を引きつけるものは，工夫の可能性の幅が大きいので，折を見て取り入れていきたいと考えています。